

平成13年度上半期業績を
ご報告いたします。



平成13年度上半期の
生命保険会社を取り巻く環境は、
超低金利の継続、株価の低迷など
極めて厳しい状況が続きました。
そうしたなか、明治生命は、
財務・資産内容において
引き続きトップレベルの健全性を
堅持しています。
また、わが国初のアカウント型保険として
生命保険の新しい流れを築いた
「ライフアカウント L.A.」は、
昨年度と同様、この上半期も絶大な
ご支持をいただくことができました。
これからも“進化”し続ける明治生命に、
どうぞご注目ください。

格付

A+ A

(株)日本格付研究所

スタンダード&プアーズ(S&P)社
(平成13年11月15日現在)

実質純資産額

1兆3,587億円

基礎利益

1,043億円

〈平成13年4～9月〉

健全性の状況

3ページ

ソルベンシー・マージン比率

504.0%

資産全体の含み益

5,312億円

(一般勘定資産全体の含み損益相当額)

トップレベルの
健全性で
皆さまの信頼に
お応えします。

リスク管理債権

0.66%

(リスク管理債権額の貸付残高に対する比率)

提携戦略

6ページ

ライフアカウント L.A.

7ページ

DATA FILE

9ページ

健全性の状況

格付

国内外の格付会社から、
トップレベルの評価を受けています。

A+ A A+

(株)日本格付研究所
保険金支払能力格付

スタンダード&プアーズ(S&P)社
保険財務力格付

AMベスト社
格付 (平成13年11月15日現在)

会社の収益力・財務状況などを、さまざまな角度から
総合的に評価し、わかりやすい記号であらわしたものが
格付です。当社は、優れた財務内容と健全な
事業基盤が評価され、高い格付を取得しています。

※保険金支払能力格付は、保険金支払債務を契約どおり支払うことができる能力を
評価したものです。保険財務力格付は、保険契約の諸条件に従い保険金を支払う
能力に関し、保険会社の財務内容について評価したものです。

※上記の格付は、当社が依頼して取得したものです。

※格付は、個別の保険契約の加入・解約・継続を推薦するものではありません。

※格付は、現時点での格付会社の意見であり、将来的に変更・保留・撤回されることがあります。

日本格付研究所	S&P社	AMベスト社
AAA	AAA	A++
AA+	AA+	A+
AA	AA	A
AA-	AA-	A-
A+	A+	B++
A	A	B+
A-	A-	B
BBB+	BBB+	B-
BBB	BBB	C++
BBB-	BBB-	C+
BB+	BB+	C
BB	BB	C-
BB-	BB-	D
B+	B+	E
B	B	F
B-	B-	
CCC	CCC+	
CC	CCC	
C	CCC-	
D	CC	
	R	

ソルベンシー・ マージン比率

予測困難なリスクにも、
十分対応できる支払余力を確保しています。

504.0%

大災害や株の暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる
「支払余力」を有しているかどうか。それを判断するための行政監督上の指標のひとつが
ソルベンシー・マージン比率です。平成13年9月末の**ソルベンシー・マージン比率**は
504.0%と十分な支払余力を確保しています。※当社は劣後ローンの取り入れは行なっていません。

保険金・給付金等の支払余力の総額
(ソルベンシー・マージン総額)

1兆2,257億円

通常の予測を超えて発生するリスク(リスクの合計額)
4,864億円×1/2

○ソルベンシー・マージン総額には以下の額が含まれています。
・基金(株式会社の資本金に相当) ・危険準備金
・価格変動準備金 ・有価証券含み損益 など

○次のようなリスクを数値化したものです。
・大災害などにより保険金・給付金支払いが急増するリスク
・株価暴落、為替相場の激変などにより、資産価値が大幅に下落するリスク
・貸付先企業の倒産などにより貸倒れが急増するリスク など

実質純資産額

健全な経営を維持していくための
十分な純資産額を蓄えています。

1兆3,587億円

実質純資産額とは、時価評価した資産から、ご契約に関わる各種負債等を
差し引いた、いわゆる時価ベースの純資産額で、保険会社の健全性の状況を示す
行政監督上の指標のひとつです。平成13年9月末の**実質純資産額**は
1兆3,587億円で、総資産の8.0%と十分な水準を確保しています。

資産全体の 含み益

バランスのとれた堅実な資産内容で、
十分な企業体力を維持しています。

5,312億円

(一般勘定資産全体の含み損益相当額)

時価と帳簿価額(取得価額等)との差額を指し、保険会社の企業体力をあらわす
もののひとつが、**一般勘定資産全体の含み損益相当額**です。当社では、平成13年9月末の、
有価証券・土地・デリバティブ取引等を含めた**一般勘定資産全体の含み損益相当額**は
5,312億円と十分な水準を確保しています。

直近3年間の株価・為替の推移

直近3年間の株式市場は、景気底打ち期待から日経
平均が2万円を超える場面もありましたが、足許では
17年ぶりに1万円を割り込むなど、低迷が続いてい
ます。為替相場は、平成11年度には一時100円近く
まで円高が進みましたが、景気減速とともに徐々に円
安基調となりました。こうしたなか、当社は内外株式、
債券にバランス良く資産を配分した結果、平成13年
9月末現在で、5,312億円の含み益を確保しています。



基礎利益

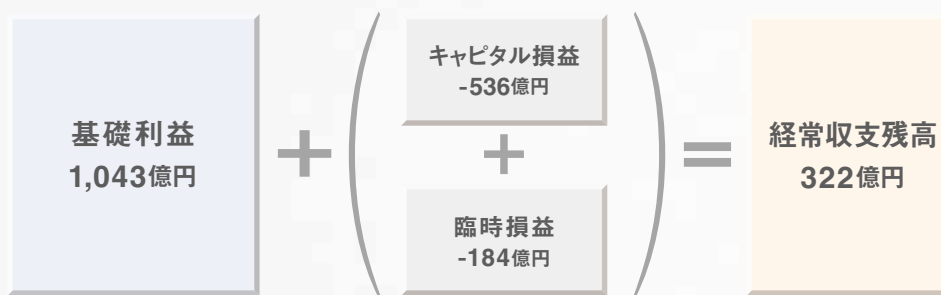
十分な保険本業の収益で、
堅実かつ健全な経営を維持しています。

1,043億円

〈平成13年4～9月〉

基礎利益とは、生命保険会社のフローの収益力を示す指標のひとつで、保険本業の期間収益の状況を表します。具体的には、保険関係の収支と、利息及び配当金等収入などの運用関係収支等で構成されます。当社では、平成13年4～9月で1,043億円と十分な収益を確保しています。

●基礎利益と経常収支残高との関係



「基礎利益」に有価証券売却損益等の「キャピタル損益」と健全性維持のために必要な償却・引当などの「臨時損益」を加えたものが「経常収支残高」(決算の経常利益に相当)になります。

リスク管理 債権

厳格な自己査定を実施し、
資産内容の健全性を維持しています。

0.66%

(リスク管理債権額の貸付残高に対する比率)

貸付金のうち、返済状況が正常でない債権を「破綻先債権」「延滞債権」「3ヵ月以上延滞債権」「貸付条件緩和債権」の4つに区分し、総称して**リスク管理債権**と呼んでいます。平成13年9月末の**リスク管理債権額**は、353億円、貸付残高に対する比率は0.66%ときわめて低い水準にとどまっています。

リスク管理債権 0.66%

